

資金繰りが苦しい中小企業の事業継続を手助けする兵庫県中小企業再生支援協議会(神戸市中央区)が、国の2016年度の実績評価で5段階のうち最高の「A」となり、前年の「B」から格上げされた。同協議会の野田勝也統括責任者(60)は「地元金融機関と連携が進んだ。経営者が高齢化し、事業承継は急務。支援を一層充実させたい」と話す。

(内田尚典)

―中小企業の状況は。
「全国の倒産件数はバブル期並みまで減ったが、休廃業と解散の件数は高止まりしている。高齢化に加え、金融機関による返済猶予の長期化が問題だ。設備更新が滞り、事業を続けられなくなる。地域の雇用にも関わらず、早めに次の世代や他の企業に引き継ぐ必要がある」
―再生協の役割は。

業務評価で好成绩の訳は？



兵庫県中小企業再生支援協議会統括責任者 野田勝也氏

この人に聞く

のだ・かつや 神戸商科大(現兵庫県立大)卒。80年兵庫銀行(現みなと銀行)。99年整理回収機構。中小企業再生支援全国本部を経て16年4月から現職。姫路市出身。

「経済産業省が47都道府県に設け、兵庫は神戸商工会議所が運営を受託している。中小企業診断士などの資格を持つ相談員が事業の可能性を評価し、収益向上の助言をした上で、金融機関との間で債務負担の軽減や新たな融資の調整をする」

―具体的には。

「連帯保証人となっている社長に一定の生活費を残す指針に沿って、抜本的な再生の決断を促す。事業を続けるための第二会社設立、金融機関による債権の一部放棄などを組み合わせて再生計画を作る。再生専門ファ

ンドや事業の引き継ぎを仲介する機関も活用し、16年度は東京、大阪に次ぐ40件の再生計画が成立した。17年度はこれを上回る見通しだ。18年度には、県の旗振りで支援機関の連携が強化される。役割を果たしたい」

「みなと銀行(神戸市中央区)が4月1日に大阪の2地方銀行と経営統合する。

「事業再生・承継支援で県内のけん引役。グループ会社となるりそな銀行も積極的に、相乗効果を期待している」

連携強化 早めの対策

「事業再生・承継支援で県内のけん引役。グループ会社となるりそな銀行も積極的に、相乗効果を期待している」